

平成28年度 第2回宇和島市総合教育会議会議録

- 1 開催日時 平成28年12月16日(金) 13:30～15:26
- 2 開催場所 宇和島市役所 701会議室
- 3 出席者 宇和島市長 石橋寛久、教育長 織田吉和
教育委員 高山俊治、廣瀬孝子、木下充卓、弓削由美子

副市長 三好伊佐夫、笹山誠司
教育委員会事務局

教育部長 上田益也、教育総務課長兼学校給食センター所長 横山泰司
教育総務課 課長補佐 土居弘、教育総務課主任 中井公子
学校教育課長 野田克己、生涯学習課長 寺尾利弘
文化・スポーツ課課長補佐 森田浩二、人権啓発課長 山崎 崇
学校給食センター所長補佐 土居広典

1. 開会	
上田教育部長	<p>ただいまから、平成28年度第2回宇和島市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の進行役を務めます、教育委員会教育部長の上田です。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議にあたりまして、皆さんにお願いいたします。携帯電話をお持ちの方はマナーモードに切り替えをお願いいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、石橋市長よりご挨拶をいただきます。</p>
2. 市長あいさつ	
石橋市長	<p>改めまして、みなさんこんにちは。</p> <p>師走も半ばを過ぎて大変お忙しい中、総合教育会議ということでお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。</p> <p>1年というのは早いものだなということを毎年のように思っておりますけれども、皆さんも段々、毎年年を経るごとに私と同じように1年が経つのが早くなる年頃であろうと、20歳前後は早く大人になってお酒が飲めるようにと思っていましたけれども、そういう頃にはるか昔の懐かしい頃となっています。本当に12月になってということで、また今週は雨ばかりということで今日は宇和島も含めて雪模様というかあられ模様といえますか、一段と寒さも厳しくなってきましたが、総合教育会議ということで先ほど進行役のほうからもありました、今年2回目ということですがけれども、前は多分7月だったと思うんですけども、今年度の教育委員会の予算というか事業計画というところを中心にお話をさせていただいたと思います。今日は2回目ということですから、今年の反省もあるでしょうけど、来年のことを考えていかないといけないということで、来年の事業計画というところのあらましと、もう一つは私が聞いているところでは国の教育制度、特に小学校5年、6年のところでICT教育と英語教育、これを大幅に強化するという方針が出されておりました、私が聞いたのでは30年くらいから、要はあと1年</p>

	<p>少し後くらいからそういうカリキュラムを組んでいくということ聞いております。それについて我々については教育制度、それと宇和島市は残念ながら大変な勢いで子どもの数が減っているということで小学校の在り方というのももう一度早急に見直す必要があるかと思っております。そのあたりを中心に皆さんの御意見を聞かせていただきたいと思いますと考えております。なにとぞよろしくお願いいたしますしまして開会の御挨拶といたします。</p>
<p>3. 教育長あいさつ</p>	
上田教育部長	<p>ありがとうございました。 続きまして、織田教育長から御挨拶をお願いいたします。</p>
織田教育長	<p>失礼いたします。教育委員さん方はもちろん、お2人の副市長さんも同席いただきましてありがとうございました。私も少し時間をとりますけれども、今週の月、火曜と2日間、本会議がありまして、たくさんの議員さんから教育委員会についての質問がでました。そのいくつかの内から特に私が考えさせられたというか印象に残ったことを3点ほど触れてみたいと思うのですが、1つは当然のことながら学力の向上ということで28年度の小学生の結果、中学生の結果については報告しました。委員の皆様も既に御存知とは思いますが、あらためて今年は放課後の補充学習に市の予算をたくさん付けていただきましたので、それあたりをしっかりと精査しながら来年度、29年度の調査で結果ができればいいなと思っております。2つ目として郷土愛につながる活動をしていかなければいけないということをあらためて思ったのですが、実は今、県の学習センターで岩村昇博士の展覧会をしております、そのことに触れた議員さんが、たまたまその時に東高の商業科の生徒が40人ほど傍聴席に来ておりました。そちらのほうを見て議員さんが岩村昇博士を知っているかという質問をしたら生徒誰一人手を挙げなかったんです。1人、2人は知っていたけど多分恥ずかしいとかそういう思いもあったのだらうと思うのですが、そうではあってもそれだけ旧宇和島市の名誉市民である岩村博士について知らないという現実があったので、あらためてそういう名譽市民だけでなく、偉人、賢人、文化財等々をやはり学校で計画的に指導していかなければいけないというようなことを思いました。3点目ですが、教育委員会のほうには振られなかったのですが、合併から11年が過ぎて1市3町の垣根というかそういうのはどうなのかというようなことを質問されていきましたけれども、教育委員会のことを考えると、特に学校では、特に小学校では例の陸上競技なども平成17年にガイスタジアムができて、陸上も1つで統一していますし、2年前から水泳のほうも吉田小学校のプールを使って、それぞれ4箇所ではなくて1箇所でするようになりました。あと市P連のほうを聞いてみましても、もうそういう旧の形ではなくて、市P連という形で運用されているようすし、スムーズにそのへんは学校現場ではできているのかなと、教職員のほうも広域になりましたので津島町の先生は津島町だけでということではなくて、南予一体で動いている状況もありますので、そのへんは教育現場のほうはそれほど小中学校ではないかなと思っております。むしろスポーツ面では県だ国だと世界をにらんで大きく取り組んでいかなければいけないのだらうと思っておりますが、まだ音楽などについては4箇所で実施しておりますし、小さな駅伝、マラソンあたりもまだ4箇所というかそれぞれのところが残っているので今後の課題かなと思いました。い</p>

	<p>ずれにしましても今日は大きな課題について協議をしていただきますので、それぞれ委員さんの立場、あるいは地域の声を反映させていただく協議をしていけたらいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
上田教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今日の会議の協議事項、大きな項目としては2点あります。なお、午後4時から教育委員会の定例会が行われますので、この会議は最大2時間程度ということで進行いただきたいと思います。ここからは、宇和島市総合教育会議運営要綱の規定によりまして、石橋市長のほうに進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>4. 協議事項</p>	
石橋市長	<p>それでは、定めに従いましてこれから私のほうで進行役を務めさせていただきます。着座でいたしますのでお許しをください。早速協議に入りたいと思います。</p> <p>協議事項の(1)平成29年度宇和島市教育委員会における主要な施策についてお諮りいたしたいと思います。まず事務局から説明をお願いします。</p>
横山教育総務課長	<p>市長。</p> <p>教育総務課長の横山です。事務局のほうの説明も着席したまま説明させていただきます。失礼します。</p> <p>まず、大項目の「1. 学校環境整備」について御説明いたします。この施策については、教育総務課所管分と学校教育課所管分がございますので、交互に説明をさせていただきます。</p> <p>それでは、(1)の学校ICT環境整備についてでございますが、従前より、ICT環境の整備につきましては、平成25、26年度に小中学校の児童・生徒用のパソコン教室の端末を更新し、特に小学校におきましては、県下の他市に先んじて、全小学校にタブレット端末を整備しております。また、教職員用の校務用パソコンにつきましても、今年度、すべての先生のパソコンを更新いたします。ICTの効果につきましては、学習内容をより分かりやすく説明する事が可能になり、結果として、児童生徒の学習意欲や理解がより深まるなどの効果が期待されます。</p> <p>また、校務を迅速かつ確実に実施できるようなソフトを導入することにより、教職員が児童生徒に関わる時間が確保でき、より子どもに寄り添った支援や指導が可能になるなどの効果もございます。</p> <p>そこで、来年度につきましては、資料①のソフト面、②のハード面の整備を計画しております。</p> <p>そのうち、教育総務課所管分について、御説明いたします。</p> <p>まず、①のソフト面のデジタル教科書についてでございますが、今年度、デジタル特区校を希望した小学校5校及び中学校1校にデジタル教科書を整備いたしました。来年度につきましても今年度と同様にデジタル特区校の希望調査を行い、希望した学校にデジタル教科書を配備しようとする計画でございます。</p> <p>次に、②のハード面のプロジェクター整備についてでございますが、これも今しがた説明しましたデジタル教科書と同様に、今年度、デジタル特区校に整備したものでございまして、来年度も引き続き希望校を調査したうえで、希望校に整備しようとする計画でございます。</p>

	<p>教育総務課分については以上でございます。</p>
野田学校教育課長	<p>市長。</p> <p>学校教育課です。ソフト面の教職員の ICT 授業等の質の向上としましては、今年度、今現在、中山指導係長がそれぞれ学校を訪問して研修する機会を 21 回行うことができました。今後は、今教育総務課から説明いただきました新しく購入していただいた教育ソフトの活用方法についての研修を各校に出向き研修を行う予定です。教育支援用ソフトの検討につきましては、教職員の業務改善ということで現在教職員の勤務時間の調査を行っております。11 月は 10 月よりも少し改善はしたのですが、小学校で平均 3 時間、中学校で平均 3 時間 30 分、学校での残業時間を余儀なくされているという現状があります。これは土日を除いた時間になっておりますので、土日にはそれぞれの方が違った形での残務の整理であったりとか部活動等の指導を行っている形になっております。そこでこの教育支援ソフトを使うことによって校務の効率化を図りながら成績処理、通知表、保健管理、出欠の管理というものがスムーズにできないかということを検討しています。愛媛県内で既に採用を行っている市の例としては、これを使うことによって 1 年目で、1 年間で 80 時間、慣れてくると 2 年目では 100 時間の校務の短縮を図れ、成績においても 1 年目で平均 3 ポイント、2 年目で平均 5.3 ポイントの学力の向上が見込めるという結果が出ておりますので、学校教育課としては校務支援ソフトの検討については力を入れているところでございます。学校教育課からは以上です。</p>
横山教育総務課長	<p>市長。</p> <p>続けて (2) 学校空調整備について説明をいたします。近年の気温上昇は、都市部だけの問題ではなく、夏場における気温は、宇和島市においても文科省が定める学校環境衛生基準を超える環境で授業が行われている状況が発生しております。したがって、空調設備を整備することにより安全・安心な教育環境につなげるようにしようとするものでございます。</p> <p>まだ計画段階ではございますが、まずは中学校 6 校を来年度から 1~2 年間の計画で整備をし、小学校につきましては、この後の協議事項と関連いたしますけれども、学校の適正規模・適正配置の計画に沿って、統合予定の小学校に複数年かけて整備をしようとするものでございます。複数年とただ今申しましたけれども、学校間の環境整備の格差が長い間生じることがないように、可能な限り短い期間で整備をしたいというように考えてはおります。</p>
野田学校教育課長	<p>市長。</p> <p>(3) 健全育成と不登校対策について、11 月末現在で 30 日以上の不登校は小学校で昨年度より 4 名増えました。中学校は昨年度より 12 名減りました。適応指導教室わかたけ、そしてまたスクールソーシャルワーカー、家庭訪問であったりとか、関係機関をつなぐ役割を担っているスクールソーシャルワーカー、そして中学校の子どもたち、そして中学校区の小学校の子どもたちの問題行動に対するカウンセリングや助言を行うスクールカウンセラーの成果が少しでているのではないかなと考えています。また、子どもを取り巻く保護者の支援も現在本格的に取り組み、そのためにスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーが学校を離れていろいろな形で今活躍をしております。そういった中で、来年度につきましてはスクールソーシャルワーカー</p>

	<p>カーの増員を少しお願いするところがございます。学校教育課からは以上です。</p>
<p>横山教育総務課長</p>	<p>市長。</p> <p>次のページの「2. 子育て支援対策（総合戦略事業等）」について、御説明いたします。</p> <p>まず、(1) 教育扶助（就学援助費）の拡充についてでございますが、近年、子どもの貧困問題が生じており、より公平な教育を提供するため、生活困窮世帯に配慮する必要がございます。そこで、就学援助費を支給いたします準要保護認定基準として、従前の生活保護基準の1.3倍の基準と併用して、児童扶養手当受給者であることも認定基準に加えようと検討しているものです。</p> <p>児童扶養手当は、1人親家庭のうち一定の所得以下の家庭に支給される手当でございますので、現在の準要保護の認定の基準と重なる家庭もございますが、この児童扶養手当の受給をもって準要保護に認定している自治体が、県内では6市、3町ございますので本市もならって加えたらと検討しているところでございます。</p> <p>また、扶助対象費目の拡充についてでございますが、クラブ活動補助を検討しております。これは、中学校の部活動において、その部活動の種類によっては用具等の購入に一度に大きな金額を出費する場合などがあり、やりたい部活をあきらめるなどの事例が生じないように国の保護費の基準であります年額29,600円を上限として支給をしようとして検討しているもので、県内では1市3町が費目として採用をしているものでございます。</p> <p>次に、(2) うわじま土曜塾（公設無料塾）の実施について御説明いたします。これは今年度の総合戦略事業の課外学習の一環として、現在、学校の放課後に実施しております補充学習に加えて、毎週土曜日に学習習慣等が身につけていない学習支援の必要な児童生徒に対して学習の場を提供し学習支援を実施することで、学習意欲や学力の向上を目指し、公設無料塾を開設しようとするものでございます。</p> <p>現在、この土曜塾を包括的に委託する事業者を公募して、企画提案書のプロポーザルの手続きを実施中であり、年内にはプレゼンテーションを実施し、事業者を決定しようとしておりますところでございます。</p> <p>実施場所は、まず中央図書館及び生涯学習センターを予定しております。契約後に協議のうえ、担当課は生涯学習課を予定しておりますが、相手方と協議のうえ実施場所については拡大も検討しております。</p> <p>また、事業者が決定次第、早期の開校をめざし調整協議を行い、可能であれば年度内、1月もしくは2月初旬に試行的に実施できないかということを目指したいというように考えております。</p> <p>最後に、(3) 学校給食費負担軽減についてでございますが、これも今年度の総合戦略事業として開始いたしました、給食費の100円補助についてでございます。別紙資料をA3でお配りしておりますが、アンケート調査の結果としましては、約70%の保護者がこの100円補助について満足しているという回答を得ております。したがって、来年度以降も継続実施をしようというように考えているものでございます。</p> <p>ただし、アンケート結果では経済的な負担軽減を実感しているところまで</p>

	至っているというように回答した方は約47%という結果でございますので、これは、ある程度長期間継続しないと効果が検証出来ないものではないかと考えますので、来年度以降、複数年長期的に継続を実施したいというように思っております。以上で説明を終わります。
石橋市長	今説明がありましたが、今年の事業の反省、あとは疑問なところなど委員さんの御意見がありましたら御発言をいただきたいと思います。
石橋市長	最後の給食費なんていうのは100円で、市全体では8千万円弱という結構な補助額になるんですけども、一人あたりにすると1食が100円ということなんで、年間で200食弱ということでは2万円くらい、それが分割だから月に2千円くらいということ、なかなか経済的に安くなったと感じない人が多いかなということがアンケート結果だと思いますけれど、先ほども言いましたが、なかなか市全体では結構な金額で、全額負担とするとこれの3倍まではいかないにしても2億円くらいは必要で、どうできるかというのは検討課題であり、やっていかないといけないかなとは思ってはいますが。 何か御意見、御質問などありませんか。 金額が示されないとなかなか質問しづらいということもあるかもしれませんが、査定がまだこれからということもありますので。
廣瀬委員	教育扶助のほうでクラブ活動の補助の分なんですけれども、やはり親は子どものために自分のものを削ってでも出しているんで、なかなか現れづらいとは思いますが、部活動を辞めたという子がいるみたいなんです。ちらっと聞いたのですが。
石橋市長	負担がしんどいからと。
廣瀬委員	そうです。遠征費とか保護者のユニフォーム、保護者も揃えるみたいで。
弓削委員	応援する時のTシャツなどもあります。
石橋市長	それは学校の先生の方針ですか。中学校の部活となると教育活動の一環ということが出てくるので、親のところまで揃えて負担するというのは私としてはどうかなと、それはやめたほうがいいのではないかと。
廣瀬委員	保護者費を集めているところもあるみたいで。
石橋市長	遠征があるため、保護者費はあるかもしれないですね。
廣瀬委員	保護者が遠征する時には全部連れて行かなければいけないので、そういうように集めて出しているらしいです。それでその子はどうしても続けられないということで辞めたいらしいですけど。そういう話を聞いたので。部活をしたいのにできない子たちはいるのかなと。
石橋市長	県で優勝を争うクラスになれば、よそにうって出ないといけないのですかね。昔は公費で遠征費というのが、私が中学校の時には年に1回くらい宇和島市外、松山近辺まで行かせてもらっていたが、そういう公費はないのですか。
織田教育長	多少は、例えば県総体とか。
石橋市長	総体は当然ありますよね。
野田学校教育	それ以外については参加はしていません。

課長	
石橋市長	私たちの頃はあったような気がします。
織田教育長	今の保護者の応援のユニフォームですけれども、どっちかという先生がどうこうよりも、保護者が応援しましょうという中でTシャツを作ったりしている様子も見られますし、中には学年ごとに冬用のユニフォームのようなものも作っている様子も見受けられますので。
石橋市長	そのあたりは教育指導をしないといけないのではないかと。私たちの頃は、ユニフォームは試合の時に着させてもらうのが憧れというところで、練習着やジャージはみんなバラバラということであったが、今はそれくらい揃っているところのほうが多いのかもしれないが。親が揃えるのは公立校では、私は学校指導でこういうことは教育委員会で指摘があったのでやめますということをやめたほうがいいのか。それでお金がかかるというのは違うかなと言いたいところですが。
高山委員	部活動の補助までは今のところは不要ではないかと思えます。上手にいろいろやり繰りすれば、やり方を少し考えればここについてはできるのではないかなと私は思います。
石橋市長	部活はお金を入れだしたらいくらでも、遠征費などいくら出しても足りないということになる。そのためにグラウンドも整備しているのであって、要は遠征費をかけるのではなくて、向こうから呼び寄せると。ただお付き合いでいつも来ていただければ1回くらいは行かないといけなくなるのも事実なので年に1回くらいの遠征費というのはスポーツ振興費など何かでみてあげるくらい。こっちに帰った時に高校のレベルですが、東高の100周年があって何かしないかということで事業としてはハード部門は50mプールだと言ったが採用されず、あとソフト部門でいえば、皆でOBも頑張っスポーツ振興費というか生徒活動費みたいな活動支援費を集めてそれを一括プールして部活動の活動費に出したらどうであろうと言ったが、なかなか。今でこそサッカーは大きな顔をしているけど昔はマイナーなスポーツで、野球部だけが飛び抜けて予算が多くて、なんで同じスポーツなのに予算が違うのかと思っていましたけど、そういうことがないようなある程度最低限のところはいるのであろうと思う。支援できることがあればいいのですけれども、全市でとなるとなかなか難しいところがあるので、各学校でそのあたり配慮してもらわないといけないと思うけど、公立中学校で親が応援のユニフォーム作るというのはやめたほうがいいのかと私は思います。他の人はどう思いますか。
織田教育長	私が把握している最低限の、例えば小学校から中学校にあがって部活を選定する時にやはりテニス部であればラケットもいりますし、先ほどのサッカーもそうですが着古した先輩のユニフォームというわけにもいきませんので、その時に作るユニフォームやスパイク等々で単身家庭等の子どもはしんどいということのようです。多分、廣瀬委員さんが言われたのは、単身家庭でも最初は頑張っ身を削ってユニフォームは揃えたと、でも途中から遠征費だとか、華美な保護者もおられますので親もついていけなくなって子どもと合わせて途中で辞めようということをやっていたのだと思います。
石橋市長	あと私がいつも引っかかるのは子どものための手当てが月に1万円まだ出

	<p>されています。それを子どものために使ってあげたらいいのではないかと、逆に、国はそういうものは出さずに全部文教費は無料にさせていただきたいと、5千円だったら市も多少出さないといけないけれども、それくらいは足してでも公立小中学校については無料化するというのだけれども、なかなか国が5千円天引きを認めてくれない、要は全保護者が同意してくれれば構わないということなのですが、なかなか全保護者がというのは。来年PTAとの話があるので会長さんも変わったということもありますし、また言おうと思いますけど。5千円出せば宇和島市は公立小学校、中学校全て無償化するというように思うが、日常的にかかるのが給食費、短期でお金がかかるのが修学旅行、修学旅行は以前は積立をしていたが最近はしていないということなので負担になる。一度に4万円支払うように言われたらやはりしんどいところはあると思うので、積立制度を復活させるとか、私も当然積立していると思っていたがしていないということでありました。修学旅行に行けないという子は年間1人、2人くらいですか。</p>
織田教育長	<p>生活保護、準要保護の子どもについては補助が出ますので。今年聞いたことですが、ある子どもが親のしつけの中の流れで言うこときかないと修学旅行に行かせないということがありましたが、結果的には行ったと思うんですけど。お金がないから修学旅行を断念したというのは聞いたことはないです。</p>
石橋市長	<p>万単位で必要になるのは修学旅行費ということなのでそのあたりの負担を減らすとしたら、一番いいのは、私はまずは現物支給というか無料化をして、財源がないのであれば子どもの手当を減らしたらいいのではないかと。民主党の時は5千円、その前は0でした。人間、もらいでしたらそれが当たり前となり、なかなかありがたみも感じなくなるし、国も大変なお金が必要だと思うけど、そのあたりの考え方の違いが、私も議員さんたちに機会があれば言っていますが、その議員さんはいつもそうですねと言ってくれますが、それでいつも終わっている。現物支給にしましょう、無料化しましょうという声にはならない。試算すると7千円か8千円くらいではないか、給食費も入れて。5千円もらったらあとは2、3千円だろうと思うので、その分くらいは市も歯を食いしばって出すと、要は給食費を無料化するくらいのことのできるのではないかと。その代わりにPTA会費を抜かないといけないので実質は2千円弱くらいになるのかもしれない。費用調査は教育委員会でしていると思うが、私が言った時だけしているのでしょうか。</p>
野田学校教育課長	<p>その時だけ調査し、あれから差はありません。</p>
石橋市長	<p>義務教育という名前からして一番ふさわしいのは全て原則的なものは無料化、PTA会費はこちらで負担はできないが、基本的な子どもの最低限のものは無料化するということで、親からすればランドセルくらい自由にお買わせてほしいというかもしれませんが。</p>
織田教育長	<p>新しい取り組みということで空調のことにも触れられましたし、市長のほうも必要性のほうに舵をきられているようですけれども、委員さん方どうですか。</p>
石橋市長	<p>この前傍聴に来ていた東高の生徒はいらないと聞いていました。全員ではないが、いらないと聞いていた生徒がいたらいい、先生から聞きました。子</p>

	<p>どもたちの中には体を鍛えないといけないからいらないという子がいましたと、連れてきた引率の先生が言っていました。宇和島市は暑い暑いというが、比較的恵まれていて、だいたい33度、34度くらいまでだから、都会のような温暖化で急激に温度が上がるといようなことはないと思います。せいぜい1度か2度、そんなこと言っていたら否定的なことになってきますが。</p>
木下委員	<p>空調設備のことなのですが、後から出てくる学校統廃合の関係もあって特に小学校全校については難しいとは思いますが、やはりある程度の統廃合を見据えたうえで小学校に空調設備を設置するのかということと、電気代ですよね、南中では月にいくらか保護者から徴収していますが、公立の小中学校ですので電気代は徴収しないで実施していただけるのかということをお聞きしたいのですが。</p>
石橋市長	<p>担当のほうも電気代については負担をお願いするのは難しいのではないかと判断で無料ということであがってきていますし、私もするのであれば無料とせざるをえないとは思っています。それとどこに付けるかという問題で、特に来年から事業化するとして旧の宇和島市内の学校はほとんど付けないといけないと、あまり空き教室はないのだろうと、城南中あたりはあるのかなと思いますが、基本的に付ける教室については査定をします。やはり小学校については特に統廃合というところの方向性もある程度加味して考えないといけないというので、担当もそこまで配慮したうえで中学校から設置ということを書いてきているのかなと思っているのですが、中学校を2年かけて事業化している間に小学校の統廃合も含めてどういう姿になるか、そのあたりを踏まえたうえでエアコンの設置をしていこうかなというように思っています。全部付けたのでは無駄があまりにも多すぎるので、それと、ましてや統廃合対象校となった時に使わなくなったらもったいないので、そのあたりの制約と空き教室が多いということと、子どもの減少によって学校の利用の形態が変わってくる可能性もあります。そこで一番踏み切れないのが松山市におけるPFIという民間資本を利用してのエアコン設置の方法もあるのですが、それを変にすると逆にコスト高になってしまいかねない、PFIというのは当然、松山がしているのは民間資本でエアコンを設置して電気代も費用の中に入れて市が全体を負担するというようなので、事業者からすると全部付けたらハード面のエアコンの設置代が高くなるし、付けた方がいいが電気代のほうがあまりいらなければそのあたりが無駄になってくる、ただ向こうからしたらフルに使ったという計算をせざるを得なくなると思うので、割高なものを払わなければならなくなる可能性がある、うちとしてはPFIはやめようということ担当のほうからはそういうことであがってきておりますので、通常の事業と同じように市のほうの事業費の中から負担し、電気代も出すという方向で、できる限り負担はしていかないといけないと思っています。</p>
高山委員	<p>今ICTの授業で効率よくすれば学力も上がるということがありますが、教員の先生を教えるのをまずはしないと、ハードを揃えてももったいなくなるので、まず教員の授業の質の向上をするために今年から指導主事を1人増やしてもらって学校をまわってもらっていますが、それをもう一つレベルを上げて、各学校まわって教員の質を上げて、そしたらまた一歩進めるのでそれを是非お願いしたいと思います。</p>

石橋市長	私もあいさつの中で言わせてもらいましたが、国のほうが語学教育で考えている導入の時期、それであとはどういうようにできるのかという概略をここでもう一度確認させてください。
野田学校教育課長	本格実施としては東京オリンピックと同じ平成 32 年度を意識していただけたらと思います。その中で先行実施としては今市長が言われましたように 30 年からの先行実施をすることはできるという形の解釈でいいのではないかと思います。
石橋市長	先行実施とは。
野田学校教育課長	例えば明倫小学校のほうには県から英語の加配教員をいただいておりますので、そういった加配教員を中心に教科とすることはできないのだけれども、それに基づいてのこういった活動はできるよという研究を教育課程内で行うことができるというように解釈していただければ一番分かり易いかもかもしれません。ですから、英語にしても教科としてしっかりと始まるのは東京オリンピックと同じ平成 32 年度から通知表に教科として明記されることになるということだと思います。
石橋市長	指導要領の次の改定はいつになるのか。その時に謳われるのですか。
野田学校教育課長	その時には謳われます。行うことができる、実施してもいいですよという感じのレベルのスタートというように。
石橋市長	その通達は来ているのですか。
野田学校教育課長	はい。
石橋市長	私がよばれた時には興味のある首長は集まってほしいということと言われたのは、要は文科省は予算を獲得しないとイケない、先生たちの育成もいるし、ハード面の導入でも文科省は何らかの補助は出さないといけない、全額支給は無理にしてもというところで。よしんば 32 年としても来年 29 年度だから 3 年間、そこで先生の養成からハード面の整備から、その時に国が想定しているのはタブレットを個人個人に持たせるくらいのことを考えているのではないか、うちの考えているプロジェクターでするのか電子黒板でするのか、タブレットを個人に持たせるのではなくて集団的教育の、平たく言えば先生の代わりをするというイメージではないように私は思いましたが。タブレットを持たせるのだらうなというイメージでとっている。32 年度からは少なくとも。ただ台数が間に合うのかと。文科省もいくらかかるかは計算しているのでしょうか、何千億かかるのでしょうか。
野田学校教育課長	そのあたりは分かりかねますが。
石橋市長	遅くとも 32 年度からは語学教育と ICT 教育を本格稼働すると国も方針として決めていると解釈すればよいのでしょうか。
野田学校教育課長	それで構いません。
織田教育長	少し付け加えさせてください。私たちがいた頃は移行措置ということで、道徳などを導入する時も 1 年前倒しでできるのですね。そのために県教委などは指定校を作って、例えば明倫小学校の研究校というのを作って、そこにある程度重点的に県教委の指導主事なども来ながら会を開いて、周辺の教員

	<p>が集まって研修を重ねていくというような形をとってきたので、今後も英語科についてはさっき明倫に1人いると言っていましたけれども、ああいう形でいくのだろうし、ICTもどういものが入ってくるのか分かりませんが、佐賀県の多久市に行った時は業者か市で指導主事的な役割を持った方が何校かに移動して指導しているということもありました。今後、もしかしたらそういう形にもなってくるのかなと期待というか予想はしているのですけれども。</p>
石橋市長	<p>宇和島市もそのはしりとして重点校ということでやっていこうというように理解している。それにしても29年度からの3年間、3年間しかない。</p>
織田教育長	<p>英語科1つとっても非常に厳しいのは確かですね。小学校の先生に英語の指導力を付けるというのは厳しいのは確かだろうと思いますし。</p>
石橋市長	<p>そのあたりが間違いなく変わってくると聞くので、そういう意味で小学校も統合しなければ、なかなか今の小学校の数に先生を付けるというのは無理ではないか、授業ができなくなるのではないかと、この2年ほど私なりに統合を早くするようにということで、その一つの案としては、4、5、6年は例えば統合小学校というか中学校に全部集まって、1、2、3年は残ってもいいですよ、考えられないことはないかなと、地元の学校がなくなることへの抵抗感に対する答えとしては、学校は置きますが、その代わり4年から上、実際には5年から上ということになりますけれども、一つの中学校にまとまって教育をしますということにしたなら、教えるという先生の立場からするとやりやすくなるのではないかなということもあって、そういう必要も考えないといけないのではないかなということはこの2年思っているということです。</p> <p>他に何か御意見、御質問などありませんか。</p>
木下委員	<p>確認ですけど、給食費の全額無償化というのは難しいとは先ほども言われましたが、100円補助はずっと継続していただけるのでしょうか。</p>
石橋市長	<p>とりあえずはですね。下げることは考えてないです。さっき言いましたエアコンのほうに設備を移していったら学校の耐震化に費用をかけていたのですが、それが終わったら後の費用がいりませんので、追加費用はありません。エアコンのほうは電気代が常にずっと使う間は必要ということと、多分機械物ですので最短でいくと5年間くらいで壊れる、いくら長くても10年くらいでは更新が必要になるであろうと、そのあたりの費用と今後発生するICTにからむところも費用がないからできませんということにしてはいけないので、余所もできていないサービスについては全体のバランスと見ながら実施しないといけないなというところで、一回決めたものは給食費補助のようにトータル4年間は絶対に実施しますということで議会にも言っていますので、100円が減ることはないです。</p>
木下委員	<p>ありがとうございます。</p>
織田教育長	<p>委員さん方、うわじま土曜塾についても新しい取り組みでありますので、この件について何かありませんか。</p>
石橋市長	<p>土曜塾はどういうようになっているのか委員さん方は分かっているのですか。</p>
横山教育総務課長	<p>計画については定例会に諮り説明をしております。年内に業者が決まって事業者と折り合いがついて教えていただける方の手配が間に合えば1月下旬</p>

	には開講したいと思っております。
石橋市長	対象は中学校だけですか。
横山教育総務課長	今年度に限っては中学校だけです。
廣瀬委員	中学校といえばやはり旧市内が中心になりますよね。1ヶ所だから。
石橋市長	中学校ではせめて4ヶ所では実施しないと、なかなか中学生に、津島の子に宇和島に来て受けるように言っても、そうそう親が連れてくるくらい熱心な人であれば、家で自主学習くらいすると思うので、現実的に言えば。本来であれば今年宇和島のどこかでとにかく実施をしてそれを反映しながら次のステップとして次年度からは旧の1市3町というところくらいで、要は中学校に1つということで実施するくらいの方がいいのかなとは思います。体制の問題もあるのですが、旧町に全然ないというのはどうかなとは思いますが。そのあたりは担当者の考えもあるとは思いますが。
廣瀬委員	先行実施ということもあるとは思いますが。
織田教育長	昨日の教育環境委員会である議員さんが学習の習慣をつけるのであれば小学1、2、3年あたりを対象にというようなこともありましたが、少し今回の趣旨とは違うので、ある程度中学3年生あたりに絞ってする予定だという話をしたところです。
石橋市長	どこにも負けないくらい低コストで幅広く、しかも中身も伴った塾ができる、それを考えないといけないとは思いますが。
横山教育総務課長	民間の塾もございますので、そのあたりも考慮してですね。
石橋市長	毎日するのであれば、それは民間に行ってもらえばよいことです。週に1回から2回というところで。そのあたりの課題はあるという前提で。 他にありませんか。それでは(1)の議題につきましてはこれくらいにさせていただきますと思います。
石橋市長	続きまして協議事項の(2)の宇和島市立学校適正規模・適正配置についてということでお話ししたいと思います。まずは考え方などの説明をお願いいたします。
織田教育長	私のほうでかいつまんで説明させていただきます。特に今取りかかっています吉田町の5小学校についてのこれまでの状況ですけれども、簡単な概略でいきますと8月29日に吉田支所に各小学校の校長、教頭、そしてPTA会長、副会長に集まっていたいで説明したのが最初になります。その折にも具体的な意見が届かなくて、むしろ市の方針を示してほしいという声が多かったので、これではということで9月、10月にかけてアンケートをそれぞれ学校に実施してもらいまして、できるだけ声を拾い上げようとしたのですけれども、アンケートでももう一つ十分でなかったのが11月、12月にそれぞれの5小学校区毎に就学前の、これから学校にあがる予定の保護者にも声をかけたくさん集まっていたいで、そこで教育総務課と学校教育課それぞれ1人が出かけて行って話を聞いた結果がそのこのプリントにあります。奥南を残して概ねそれほど反対はないという、表を見て簡単に言いますと吉田の5小学校を1つで吉田中学校あたりにという声が多いか思ったり、スク

	<p>ールバスのことがでていうようなことになっています。あと奥南は年明けになります。併せてスケジュールの分よろしいでしょうか。それについて言いますと、今日は12月ですけれども、今後5小学校が出揃い次第整理した後で市長協議、あるいは議長協議をしながら、できれば1月末、遅くても2月の1ヶ月かけて5小学校に出向いて行って再度いくつのかの方針を示して説明会をということを考えています。そして年度をまたぎますが、4月には地元に出向いて地元説明会という形でなんとか4月いっぱいである程度ははっきりした方向性を示したいというのが大雑把なスケジュールではあります。以上です。</p>
石橋市長	<p>大雑把なスケジュールで今の吉田のほうは1つに統合したらという声が強いという認識ですか。</p>
織田教育長	<p>津波の心配がいない所にと。そうなれば自ずと中学校のあるところくらいかなという感じですが。</p>
石橋市長	<p>あそこは津波の心配はありますが。上に逃げるということも考えられるが。小学校を引っ越すといっても引っ越すところがありません。概ね統合ということはやむを得ないという。</p>
木下委員	<p>先ほど教育長が言われたとおり、7月に小学校の保護者へ統合するのに賛成かどうかというアンケートをとった時には保護者自体も戸惑いがあった、急にそういう話が来たもので、どう回答したらいいものか分からないのですけれども、やはり特に低学年の子どもたちの数が減ってきており、本当に少子化という現実をふまえて賛成という方が小さい学年の保護者には多かった、やはり上の学年の保護者の方には愛着もあるし地元の小学校は残したいということで7月の状況では半々くらいという結果だったのですけれども、あと保護者と校長先生、教頭先生との意見交換会、それから先ほど言われました11月、12月の各小学校毎の保護者、それから今幼稚園に通われている就学前の保護者も含めて意見交換会をしました。私は地元の喜佐方小学校だけしか行ってないのですけれども、そこでも保護者の方々がグループに分かれていろいろな意見を出していただきました。それがこの表に書いてあるのですけれども、本当に子どもが少子化ということでの不安といいますか、適正規模がいいのではないかとということで積極的に統合することに賛成ということではないのですけれども、統合は致し方ないのかなというのが実感しているところではないかなと思います。反対する保護者にやはり一番ひっかかるのは通学の面が遠くなるということもありますし、現在地元の学校が非常に満足いく状態だと、これは逆にいうと非常に喜ばしいことではあるのですけれども、今の学校の先生に対する信頼とか耐震化を含めた学校施設も十分良いものになってきているし、また、保護者同士や地域の人々とのつながりも濃く、本当に地域に根付いた小規模校ならではの良さがでていうことで今の学校に対する信頼が非常に高い、満足度が高いということは本当に嬉しいという、喜んでいいことではあるのかなと思います。ただやはり小さい学年の子どもたちや低学年の保護者の方からは少人数では競争力と一緒に団体のスポーツなどもできないということもあってできれば吉田町全体が1つになれば1学年2クラス程度の学校規模になるので一緒になったほうがいいのではないかと意見が多いようです。ただ希望することとしては立地場所として安全面、特に震災とか津波、これは吉田のどこの小学校</p>

	をみても海拔 10m以下のところに建っています。
石橋市長	立間の海拔は。
木下委員	立間で 9m です。喜佐方も山とは言いますが、立間にしろ喜佐方にしろ学校前を川が走っていますので湾から津波が押し寄せてくると川を遡ってきますので状況的には似たようなところかと思えます。立地面としては安全面、災害に対する時の安全面と、できれば一緒になるのであれば新しい綺麗な校舎にしてもらえればありがたいなという声は聞かれました。それと不安な点としては吉田も玉津の明浜町の境から奥南の大良のほうからいろいろと距離が遠いところがありますので、それぞれの地区において通学手段への不安が大きいというのが事実です。その辺がもし統合となった場合の課題かなと思います。予想していた以上に統合することに抵抗感は少ないなという状況と感じました。
石橋市長	私も自分の言う小さいうちは地元に残して分轄してもいいですよという案も出るのかなと思いましたが、そういう声は少ないと聞くのでそうなのかなと思ひ理解はしているのですが。教育委員会の今日ついている表というのは何の意味があるのですか。
織田教育長	これについては先日市長からも宇和島市全域として考えるように指示もいただきましたので、吉田町は進んでいるので敢えて他のほうへ目を向けて私のほうで 3 年後はどうか、あるいは 5 年後はどうかということ、3 年後の 31 年度に気になる数を取り上げていきますと、城北校区でいえば高光がこういう人数になる、そして新入児童をみると 8 人ですし、三浦も今もそうですがこういう状況があるし、三間は成妙が 3 年後もそうですし 5 年後になると 33 人、とりわけ 33 年度の新入生が三間の 3 校合わせても 19 人です。41 人から 19 人になりますし、そういうところをいくつかピックアップしてみて、あらためて宇和島市全体をみた統廃合も考え直していかないといけないなど。最初は 5 年後、10 年後をと言おうと思っていたんですけど、とてもそんな悠長なことではない、3 年後、5 年後がこういう状況ということであらためて早く立ち上げて今後の宇和島市の小学校のことも考えていかなければいけないという思いでこれを作成させていただきました。
石橋市長	3 年後、5 年後に色がついているのは。
織田教育長	50 人をきると複式学級の可能性が出てくるということで色をつけています。
石橋市長	私が試しに全校生徒で 50 人きれるところに印をいれたらピンク色の部分になります。唯一、今は 50 人きれているけど 5 年後くらいに増えてきそうなのが北灘だけが 4 年後か 5 年後から 50 人以上に回復する。ここをどう見たらいいのかということだが、あとのところは少なくとも今の出生数ではこれから 10 年間みても 50 人以上にはならない、要は 50 人が数としても捉えやすいし、50 人きれたらどこかで複式が出てくるというように思わざるを得ないというところで、だから吉田は全体で 1 つに新しい統合小学校を造ってもらったらというように意見集約できているけど、他のところも並行してやっつけていかなければいけないのだろうということを思っています。同じ基準でということになれば教育委員会としては 50 人きれるところは今までどお

	<p>り、大きな方針としては複式学級が解消される見込みがないところについては統合対象にするというのが一番大きな方針であろうと思っっているのですけれども、それでいけばこのようになっていくのではないかなと思っっています。では、まず宇和島からいけば、宇和島をどうするか。九島は統合するので来年からは鶴島にということで、これは議会でも聞かれたんですけども、橋を造る時に費用対効果ということで小学校、幼稚園を維持しているところ何十年の間には建て替えということが起こってくる、その費用を思えば九島に橋を造ったほうが安く、みんなも便利になるということで、九島も統合については致し方ないというところで同意をもらっている。あと高光が5年後以降だけど6年、7年目になると40人台になってくるという、これをどうするかということ。すでに50人きれているのが三浦と表の下のほう（結出・蔣淵・遊子）にあるけど、どこかと統合せざるを得ないというのははっきりしているわけで、吉田と同じ時期には当然やっていかないといけないと、今まで放っておいたのは全体を見渡してというところと、教育制度のところでも少し余裕をもたせてということで思っっていましたので、ただ三浦は対象、それから吉田地区は吉田小以外は50人をきれているというところで対象、玉津は今結構帰りよるのでどうかなというはあるんですけど、方向性が出ているのであればこの際やらせていただいたほうがいいと思っますね。三間でいくと成妙だけがというの、どういようにすればいいのか考えてもらわないといけない。とにかく三間は成妙が危ないというところでこれをどうするか。津島については清満、御槇、統合したら、この表でいくと御槇が清満に行けばこの7年間でいけばかろうじて50人は維持できるということと、御槇といっても、ここまできたならそんなことは言ってられないだろうというところも思ったりすると、やっていくか。それと畑地が急激に減る、団地が減るということで。本当は減っていたけど団地が新しくできたためにできていたと思っのですが。</p>
廣瀬委員	<p>団地にはそのまま住まわれているから入れ替わりがないためどうしてもそうなります。</p>
石橋市長	<p>それともう一つ、北灘小学校をどうするか。増えるので、なかなか難しいところはあるけど、畑地は統合せざるを得ないのかなと、下灘も危なくなってくるのだけれど、この表をみると50人台はかろうじて維持しているというところで、まだ統合して10年経っていないのでそこをまた統合というのどうかなと思っます。</p>
廣瀬委員	<p>下灘は距離的にすごいありますので。</p>
石橋市長	<p>あと宇和島の周辺部の結出と蔣淵、遊子自体も来年からか、29年度から40人台になってくるということなので。</p>
廣瀬委員	<p>結出は来年3年生以下になります。</p>
石橋市長	<p>地元の人でもこれではちょっと少なすぎるなど思っはいるでしょうけど。今の時点でみるとこういうところはみな対象としてやっていかないといけないと、そこについてはまた委員の皆さん方、それからある程度方向性が決まれば議会にも言わないといけない。できればこの年度内くらいには議会のこういうところは統合していきますと言ったほうがいいのかと、吉田だけが進んでいくというのも変な話なので。</p>

木下委員	<p>確かに保護者の中には、この吉田の4校よりも児童数が少ない学校が他の地区にあるのになぜ吉田なんですかという声は本当に出ました。吉田だけではなく、宇和島市もふまえた全体でのということと、先ほどから出ております ICT 教育と小学校の英語教育の義務化で先生の対応がなかなか難しいという現状も保護者の方々に知っていただかなければいけないのかなと、こういう言い方をすると語弊があるかもしれませんが、市内の大規模な明倫とかの小学校あたりには機器も入って、良い先生もついて小規模校では ICT 機器も遅れて、先生もなかなかつけないという教育の格差が同じ市内であってはいけないと思いますので、そのあたりもふまえて統廃合に関して保護者の方々に丁寧に説明していただければいけないと思います。</p>
石橋市長	<p>これ以上今日の段階ではなかなか出ないかもしれませんが、でも近々、これ来年度まで待つというような悠長なことはやっておれんのかなとは思いますがね。年明けにでももう1回集まっていたいで皆さんの意見を集約して教育委員会としての方針をある程度決めて、全部決めると議会から怒られるかもしれないけど、答えはだいたい考えたらそっちの方向しかないかなというようにところどころ出てくるのだろうとは思いますが。特異な例は北灘で、増えるということはあるがたいことなんですけれども、それと遊子は3つ一緒にしても6年したら50人をまたきれてくるという、これが分かっていてここだけで統合するというのはどうなのかなと、そのあたりは悩まないといけないところかなと思います。皆さんそれぞれ考えていただいたらと思います。</p>
織田教育長	<p>そこのひっかかりがあって、20年2月の市長への答申で3校については遊子小学校に1つでという答申が出ているのですが、いろいろな事情を聞きますと、宇和海の統合もあったりして地元住民の感情もあり、なかなか手を付けられないまま今日に至っているという状況もあるようで、私の個人的なイメージですが、再度統廃合に向けての答申、連絡協議会的なものをですね立ち上げて、そのあたりからあらためて三浦半島4校をどういう組み合わせを考えていただければいけないのかということ等を検討するための何か協議会的なものがあるのではないかと思ったりはしていますけれども、それでは遅いと言われれば確かに時間はかかるのですが、29年度いっぱい、29年度の中でなんとかそこを他のところも含めて委員さんを含めて、前回は委員を24名ほど議員さんも入れてですね、そして教育委員長である清家さんを中心に話し合いをした記録が残っているんですけど、そういうイメージを私の段階ではもっております。まだ委員会では詰めてはいないのですが。</p>
石橋市長	<p>そういう形式で行うのであれば1月に実施して結論をだしてもらえばいい。1年かけるという時間的な余裕はあるのかなと。今年度中に委員会を開くなら開いてもらってもいいが。それは遊子地区のことを言っているのですか。</p>
織田教育長	<p>遊子地区も含めて市全体で、三間や津島のこととか、3年後、5年後をにらんだ会を市全体の委員さんに出てきてもらって、1市3町の中から。</p>
石橋市長	<p>前回と同じ人に出てきてもらうのですか。</p>
織田教育長	<p>前回とは違います。あらたにメンバーを選定します。</p>

石橋市長	それなら1年がかりになりますよね。それで間に合うのかな。
高山委員	前は人数が結構多かったんで、私も入っていましたが、あそこまでの人数はいらなと思うので半分くらいの人数にして迅速に取り掛かって、教育長主体で、そして市長に答申し、市長との意見交換をしていけばどうだろうと思っております。
石橋市長	否定はしませんけれどもタイムスケジュールはどれくらいになるのですか。議会はその中に入ってもらえばそれでいいのかもしれないが。
笹山副市長	選挙もあるので年明けからスタートして6月くらいに結論がでるくらいのスパンであれば割合早めの結論がでると思いますけれど、それ以上に遅くなると年度末までずれますね。
石橋市長	今回の場合は5年、6年生のところは特にかなり変わってきそうなので、それが31年ということであればそれまでに対応を整えておかなければいけないということで、1年余裕があるといえはあのかもしれないけど、吉田は新校舎を造らないといけない訳です。基本的に。
木下委員	造っていただけるのなら是非とも。
石橋市長	全部は無理でしょうが、吉田は全部集まっても2クラス、要は上級生にするか下級生にするか、吉田中学のほうに空き教室があるのでそっちのほうに上級生が入るとすれば下級生が入るくらいの教室と、あとは特別支援対応の教室とを新しく造ればいいのかなくらいに、教室の数をどう計算するかまた担当のほうによく試算してもらえばいいのだけれど、必要な数は造らないといけない、かといって余るような数までは造るのはもったいないというところでの対応なので、とにかくそうすると、始まるのが32年度なので31年度末までに少なくとも学校ができていなければいけない、それまで吉田は、吉田小学校は大きいからできるかもしれないけど、他の学校は試験校になれない、自動的に規模からして吉田小学校しかなれないのではないかと、できれば1年前倒しにできればなんとかというのもあると、30年といえは、今年中にある程度の方針を決めても地元の了解をとるのにかかっている間に合わないのか。大方針が出てそこからまた1年かけて地元の説明しては全てに間に合わなくなる可能性がある。だからどんなに遅くても来年の6月、そのあたりをもう少し教育委員会で練ってもらって、吉田については皆が統合したほうがいいのかというのであれば、なんらかのものを造らなければ収まりきらないだろうとは思いますが。そしたら建築期間を1年とって対応を考えないといけない。設計を入れたら1年半でも危ないくらいかなと思う。やはり2年はかかる。来年中に全ては決めないといけないと、それなら前半で案を出しておく必要があるなど。 この点で他に何かありませんか。
高山委員	将来的に旧3町は1つの小学校で、個人的には小中一貫にさせていただいて、三間のことを言うと三間中学校がいずれ1学年1クラスになって統廃合の対象になってくるので、その時に小中一貫校にして運営したらどうにか進むのではないかなと思うのですが。吉田をするにしたら吉田でお金がかかって、次の段階、次の段階くらいで、10年くらい先まではきちんとさっき言われた答申で、こういうように将来的にはしますと、そしたら3年、5年はこうなるので吉田はやって、次また三間とか津島に行く時に説明したらいいのでは

	ないかと思います。宇和海地区については距離がすごいと思うんですよ。もし蔦淵の1年生が入って番城かどこかと統合したらすごい距離になるので、なかなかそこは難しいので、分校とかなら。三間については今言ったとおりです。
石橋市長	それならずで統合している須下も変わらないくらい遠い。
高山委員	蔦淵と似たようなものですか。
石橋市長	はい。蔦淵は遊子からは結構離れているんだけど、須下は平井のところから国道に出るまでが結構距離がある。直線距離ではあまりないけど海岸沿いを通るため。 三浦の人に遊子に行つてと言っても、人間の心理として真ん中のほうから端のほうに行けと言ってもなかなか行けないということもあるので、ここらは悩ましいところではあります。それと三間も中学校、小中一貫校は手としては考えられるけど、それにしても1学年で1クラスというのは変わらないというところで、今からは遅まきながらも子どもが増えるよりまずは移住者が増えるように、宇和島市民がかつてのように増えるようにするほうが早いかと、可能性は無きにしも非ずということで、宇和島も地価が下がってきていますから。
笹山副市長	前回団地に来た人の8割は旧宇和島からでした。
石橋市長	長いスパンでみたら市外からの移住者に期待しながら当面は旧宇和島の人がここなら安く家を建てれるからということで宅地造成して、子持ちの人を移らせることくらいで考えたら多少は、10人増えたら万々歳だと思う。
笹山副市長	三間のコスモスタウンを造る時に直接的には成妙小学校が危ないということでしたのですが、それでしばらくはもったので、確かに効果はあるとは思いますが。根本的な解決には長い目でみたらならない。
石橋市長	そういう総合的な政策もしなければならぬのかなと考えております。 中学校の1クラスというのはしんどいなと、かといって三間も城北に行つてというのもなかなか。高校がなくなるのも危機感を持っていると思うが、中学校がなくなるとなればなかなか。 人数的には畑地は下灘に行ければいいが、やはりどうしても岩松のほうになるのであればそっちということになるが。 とにかくできれば1月くらいにどういう方針でいくのかということをはっきり確認しておいたほうがいいのだろうと、教育委員さんは毎月集まっているので私が出れるかどうかだけのことなので、また出れたらということで、担当はそのあたりの準備をお願いしたいと思います。 それでは学校統廃合の件はそれくらいでおかせていただきたいと思います。
5. その他（意見交換）	
石橋市長	あと、最後に、その他ということで、何かありましたらお願いいたします。
高山委員	城東中の渡り廊下の件なのですが、前回三好副市長も一緒に学校訪問に行つていただいた時に雨が降り出しまして、私たちが渡つて帰る頃に通行禁止の立札が出されて、結構不便な学校生活をしないといけないので県のほうに行つて聞いてきてもらったんですけども、今のところに建てるのはダメだ

	という返答であったと思います。もう少し知恵を出して下から建ててみるとかできないものかと思ひまして。
横山教育総務課長	県の建築指導主事さんのほうに再度確認をしに行きました。今の渡り廊下に屋根を付けることが建築基準法上本当に認められないのかどうかということについて確認しましたが、結論は今の渡り廊下のところに屋根を付けることは建築基準法上違反になりますという回答でした。これと同じことが県立高校でも起こっておりまして、南中等も校舎1棟建て直しているのですが、ここも渡り廊下は青空で、ここは距離が短いので城東中ほどの不便さはないのだと思いますが、そこは同じ条件なのでダメですという結論でした。今、高山委員さんから言われたような、私もなんとか可動式の、例えば屋上のビアガーデンにあるような可動式の簡易な屋根でもダメなのかと食い下がってはみたんですが、それは耐火構造物ではないのでダメですという、結論から言いますと八方塞がり、今のところなすすべがないというのが現実でございます。
高山委員	渡り廊下から離して、軒みたいにしてもいけないと言うのですか。
上田教育部長	あの手この手で考えて持って行ったのですがダメでした。
石橋市長	割り切るとすれば来た人も含めてみんな下に降りて、また上に上がりましょうと。
高山委員	ケガしている子とか調子悪い子とか荷物をたくさん持っている子とかが困る。
上田教育部長	城南中はうまくいったのですが。
横山教育総務課長	城南中も明倫小もそうなんですけど、城南中の場合は校舎のほうが、新しく建てるほうが面積が小さい、だから増築扱い、城東の場合は新しいほうが面積が広い、だから増築扱いはできないので、これは新しい新基準の建築基準法の適用になりますということでした。
石橋市長	今の理屈は大きいほうが新しいのと、大きいのが古いのとで違うのですか。
高山委員	それは県の建築基準なのですか。
上田教育部長	いえ、建築基準法なので。
石橋市長	それをどう解釈するかだと思います。
上田教育部長	建築指導主事さんが権限を持っていますので。
石橋市長	建物としては屋根と壁がないと建物にならないと思いますが。
横山教育総務課長	私もそういう認識でありましたが、どうも違うみたいです。唯一屋根を付ける方法としたら新耐震のある職員室のある建物を建替えた時は屋根をつけてもいいという話でした。
石橋市長	なんとかできないかということで皆で努力はしたのですが。津島中学校は落成式をすと言っていたが。
横山教育総務課長	はい。御案内を秘書にお渡ししておりました。
石橋市長	子どもたちはどうしているのですか。
上田教育部長	引っ越して授業しています。
横山教育総務課長	市長が言っていただきましたらいつでも御案内できます。
石橋市長	宇和津小も使っているのですか。

横山教育総務課校	宇和津小も使っています。戸島も新校舎のほうに引っ越しして、裏の建物は壊しています。
石橋市長	あと工事しているところがありますか。
横山教育総務課長	津島中学校の古い校舎を壊す工事の入札が来週です。
上田教育部長	岩松公民館の改修は今実施しています。
廣瀬委員	いつできるのですか。
上田教育部長	もうしばらくしたらできます。
石橋市長	あと教育委員会に関係するのは駅前の複合施設の1階、2階が生涯学習センター部分ということと、図書館というところで、入札を年明けにして、公示が年明けになるので入札は2月になるのではないかと、3月の議会で承認を得て工期は年度替りからというところがあります。教育に関わる大きな施設はそれくらいですかね。
上田教育部長	あとプールがあります。
石橋市長	これは来年度の末で完成予定ということで、これも入札は年が替われれば実施する。
木下委員	その間プールが半年くらい使えないということで、吉田の場合はふれあい運動公園のプールがあり、子どもたちも個人的には使うのですけれども、特に健康ブームということで年配の方が泳ぐだけではなくて歩いたりするのに温水プールを使うので、なかなか困っているという声が担当課のほうから上がってきているのですけれども、できるだけ、特に旧市内の場合は今まであったクアもプールから撤退しておりますので、温水プールが石丸のプールしかない状況なので空白の期間ができるだけないようにしていただいたらと思います。
石橋市長	今のところ空白の期間が6ヶ月、その間は石丸のプールをボイラーを焚いて温めるのですけれども、空白期間が残念ながら冬場に入ってくるので熱量が足りないだろうと心配はするのですけれど。それともう一つは津島のプール、20mの温水プールがあって、歩くのはそれで十分できるので、今修理を、表側の風呂のほうはだいたいできたのかな、あとプールのほうは来年度の前半くらいにできたらいいが。石丸のプールを使えたらいいのですけれども、冬場になったら、あそこは日が照るようにかっこよくしているが、逆に言えば隙間だらけの建物なので冷えやすいんですね。何か努力はして見ないといけないとは思っています。 他に何かございませんか。
	特になし
6. 閉会	
石橋市長	それでは、以上をもちまして、平成28年度第2回宇和島市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。